

浦賀文化

平成30年(2018年)1月1日

第52号

Email:uragabunka@yahoo.co.jp

組曲「横須賀」に見る浦賀

文化行政の動きが活発になりつつあった時代背景のもと、昭和五十七年に横須賀市は「文化の元年」を宣言。その一環として組曲「横須賀」は制作された。因みに、浦賀文化センター(現浦賀コミュニティセンター分館)も同じ年に開館している。



黒船(サスケハナ)
浦賀コミュニティセンター分館所蔵

今回は、横須賀を代表する楽曲「合唱と管弦楽のための組曲『横須賀』」から、浦賀を描いた部分についてご紹介しましょう。私たちの郷土横須賀には、太古から現代までの歩みを語る、さまざまなきごとがありまして。その一つひとつをたどる中から現在の横須賀を知り、未来への展望を考えるヒントをもたらしめてくれます。

組曲「横須賀」は、横須賀市の市制施行七十五周年を記念してつくられました。栗原一登の作詞により、横須賀の歩みを歴史や伝説を素材にして綴るとともに、横須賀の自然や風土を雄大なスケールで織り込んでいます。作曲家團伊玖磨とのコンビ

でつくられた名曲として、昭和五十七年の初演以来、欠かすことなく演奏され続けています。これは、郷土をテーマにした記念曲としては珍しいことと言われています。

組曲というのは、いくつかの章に分かれているものを一つの曲として編成したものをいいます。横須賀交響楽団と横須賀市合唱団体連絡協議会の有志の皆さんにより演奏される組曲「横須賀」は、これからも横須賀市民の文化財として親しまれていくことでしょう。

に、決死の覚悟でアメリカ船に乗り込んで行ったことでしょう。異国船打払い令の敷かれていたわが国は、外国船に対しては容赦なく追い返すしかありませんでした。しかし、威圧的なペリ

第一楽章 第二章 黒船 来たる

霧こめし 浦賀の海の
波を巻き
国を開けと 黒船 来たる
大いなる 歴史の朝ぞ
黒船 来たる

波とどろ 浦賀の海の
高鳴りは
目覚めし国の 暁の歌声
大いなる 歴史の街ぞ
黒船 来たる

久里浜よ 浦賀の海を
見はるかす
碑高し 時を経し いま
大いなる 歴史の海ぞ
黒船 来たる

さらに、第三楽章の第四章「谷戸の物語」に続く第五章「祭(虎踊り)」では、西浦賀の為朝神社で毎年六月に行われている「虎踊り」を綴っています。この章では、虎の着ぐるみに身を包んだ二人の少年が、勇壮な踊りを演じる場面を表現しています。少年少女合唱団の皆さんにより、和藤内のセリフも交えて行われ

ます。内容は、叶明神のご利益により和藤内が虎を退治する場面です。これは、江戸時代に人々を悩ませていた悪疫を虎にたとえ、その退散への願いを込めたものです。

第三楽章 第五章 祭(虎踊り)

詞「和藤内 これにあり アノウ
陣鉦 ウンソレヨウ」
大虎 小虎の 虎やあやあ
頭振り振り チョイトナ
目玉 きらきら チョイトナ
ひげを ぴんと立て チョイトナ
ケンソン ケンソン ケンペロリン
為朝さんも 母ちゃんも
見てくれ 虎が 降参だ
病気も いっしょに カッピキエー
チャチャラ チャチャラ チンカラ
ケンブリ オケケンケン

詞「アリア アリア ありがたや
虎もやすやす 従えたり」
大笹 小笹の 虎やあやあ
口を あけあけ チョイトナ
しっぽ まきまき チョイトナ
足を どんと チョイトナ
ケンソン ケンソン ケンペロリン
明神さんも 父ちゃんも
見てくれ 虎を 退治した
病気も いっしょに カッピキエー
チャチャラ チャチャラ チンカラ
ケンブリ オケケンケン

以上、組曲横須賀から、浦賀にちなむ場面をご紹介しました。今年の演奏会は、四月十五日(日)に芸術劇場で行われます。ぜひ、一度鑑賞してみてください。
(芳賀久雄)

